

最上の子どもたちのために

# 未来へ紡ぐ

- ◆ 最上教育事務所指導課通信
- ◆ 令和7年 1月 6日
- ◆ 最上教育事務所指導課
- ◆ 第 8 号

## 第4回 初任者研修授業研究会

令和6年11月26日(火)

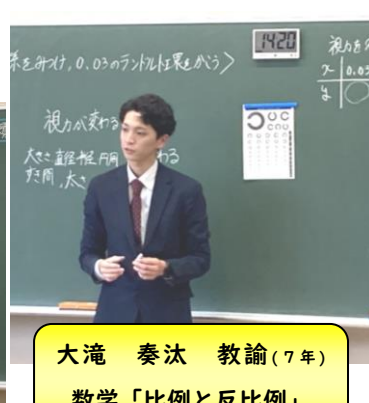
明倫学園を会場に今年度最後の校外研修となる授業研究会を行いました。これまでの経験を生かし、児童生徒のために深い教材研究のあとが感じられる授業が展開されました。事後研では、「まとめ・振り返りの充実に向けて」の視点で、授業における子どもの学びから見取った良さについて活発な協議が行われました。初任者としての一年を振り返る会では、周囲のサポートに感謝しつつ、教師としてさらに成長していきたいという思いを語り合いました。

### 授業の様子



横山 奈那子 教諭(2年)  
国語「みきのたからもの」

半田 柊斗 教諭(5年)  
算数「面積の求め方を考えよう」



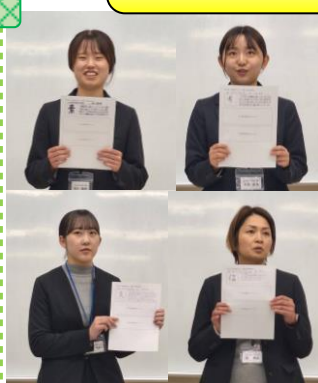
大滝 奏汰 教諭(7年)  
数学「比例と反比例」

佐藤 由佳里 教諭(8年)  
英語「Research Your Topic」



### ★振り返りアンケートより★

- 子どもの実態を捉え、本時の振り返りから次時の課題をつくりあげていくことができるように、振り返りを工夫していきたいと思いました。
- 子どもの学びの過程や教師のかかわりについて学ぶことができました。子どもの学びたい意欲を引き出し、ねらいを達成するための授業づくりを考えていきたいです。
- 「一年を振り返る会」では、それぞれの先生方の今年一年の思いを知ることができ、一層結びつきが深まったように感じました。



### 協議の様子

## 初任者研修を終えた皆さんへ

1年が経つのは、本当に早いものです。1年間を通じ、研修にひたむきに取り組む先生方の姿勢には、子どもたちに力をつけたいという熱い思いを感じました。

初任者研修資料「学び続ける教師」に、大村はま先生の『灯し続ける言葉』が引用されています。

### 「今日の新たな一滴が要るのです」

教師の仕事は、生きている子供たちに生きた知恵を育てることです。そのためには、初々しい感動、新しい命のようなものが教師の側にないと、子供を惹きつけられません。…今日の太陽が昇って、昨日の自分とは違う新しい自分がある、そういう激しい成長力のようなものが子どもを動かします。…子どもに伝わっていきます。人を育てるとはそういうことです。…今日の新たな一滴が要るのです。



教師は、子どもたちにとって保護者の次に出会う身近な大人です。多くの時間をともに過ごします。私たちの行動や言葉が、どれだけ子どもたちに希望や力を与えているのか。未来を担う子どもたちに、生きることのすばらしさや、学ぶことの楽しさを伝えるため、2年目以降も学び続けていきましょう。ご活躍を期待しています。





# 新時代の英語教育実践リーダー研修

令和6年11月6日(水)

真室川小学校を会場に、安藤由希子教諭による新時代の英語教育推進事業公開授業研究会が行われました。第3学年「This is for you.」の授業では、子どもたちがお世話になっている先生方へ感謝の気持ちを伝えるカードを作るのに必要な材料を買うために、相手に伝わるように表現を工夫しながら、欲しいものを尋ねたり答えたりする言語活動の場面が設定されました。子どもたちは自分が欲しいものの形や色、大きさ、個数を英語で考え、それを相手に伝えたり、相手の欲しいものをよく聞いて英語でやりとりしたりしていました。また、最初は英語によるコミュニケーションに戸惑っていた子が、友達と協力しながら、積極的に英語で表現する姿も見られました。講師に、CALA グローバル代表の阿部フォード恵子先生をお招きし、授業への指導・助言をいただくとともに、「主体性、自主性を発揮し、自分の気持ちを英語で伝える力を育む授業づくり」について講義していただきました。

安藤 由希子 教諭 (真室川小)  
第3学年 外国語活動「This is for you.」

## 阿部先生の講義より ～子どもたちの主体性と自主性を育むために～

- 子ども中心の授業
  - ・子どもの興味関心に基づいた言語活動を設定する。
  - ・子どもの活動を見守る姿勢を大切にす。
- 多様な学習活動
  - ・始まりと終わりの歌、チャンツ、ゲームなどを取り入れる。
- オープン・クローズドクエスチョンと主体性
  - ・質問を組み合わせることで、効果的に主体性を高める。
  - ・クローズドクエスチョン…答えやすく、既習事項の理解度を確認するのに役立つ
  - ・オープンクエスチョン…子どもたちが自由に考え、表現する力を養う



# チーム MOGAMI 授業研究会

令和6年11月27日(水)

小学校国語部会は、戸沢学園 大友真紀 教諭、日新小学校 黒坂沙紀 教諭、真室川小学校 吉川文哉 教諭の3名がチームとなり、第6学年「おすすめパンフレットを作ろう」(書くこと)の授業について検討を重ねてきました。単元で育成を目指す資質・能力「相手や目的を考えて、引用したり、写真などを用いたりするなど、書き表し方を工夫する力」とは、どのような姿なのか、子どもたちをその姿に近づけるためにどのように単元を計画していけばよいのか等、チームで教材研究を重ねてきました。検討の中で「これまで『何となく書けた』で終わってしまっていたな。」そんな声も聞かれる場面もありました。11月27日には、戸沢学園 大友教諭の授業を参観し、本時の子どもの学びの姿はどうだったのか、評価規準に照らし合わせて協議を行いました。

大友 真紀 教諭 (戸沢学園) 6学年 国語  
「相手や目的を明確にして、すいせんする文章を書こう『おすすめパンフレットを作ろう』」



## チーム MOGAMI メンバーの声

- ・学習と評価について考えることができました。児童の作品だけでなく、学習中の様々な場面に評価の機会があると感じました。今後も、児童が生き生きと活動できる学習課題と評価について学びを深めていきたいです。  
(戸沢学園 大友 真紀 教諭)
- ・教材をどのように捉えるのか、捉えた上でどのように指導するのか、深い教材研究の大切さを改めて実感しました。今後も他の先生方の価値観に触れる機会をたくさんとり、授業のこと、子どものことをもっとしゃべって、授業づくりや学級づくりに生かしたいです。  
(日新小学校 黒坂 沙紀 教諭)